



第90号



発行 宇治市教育委員会
〒611-8501
京都府宇治市
宇治琵琶33番地
TEL (0774) 21-1879
https://www.city.uji.kyoto.jp/

編集 学校教育課内
「学校教育広報」
編集委員会

教育にかかわる3計画の策定

宇治市教育委員会では、これからの時代にふさわしい本市の教育施策の指針となる「第2次宇治市教育振興基本計画」を含む3計画を策定しました。令和4年度からはこれらの計画に基づき、各種取組を進めていきます。

第2次宇治市教育振興基本計画 令和4年～令和15年

社会経済の変化や時代の潮流とともに、宇治市及び教育を取り巻く環境も変化していくことが予想されます。こうした環境の変化を見据えながら、生涯にわたる教育・学習環境の充実を図ることが求められます。

教育理念 家庭・学校・地域でささえる宇治のひとづくり・まちづくり

目指す人間像 「ふるさと宇治」を愛し、グローバルな視点に立ち、社会の変化を前向きにとらえ、主体的に考え行動し、よりよい人生と「あすの宇治」を創り出せる人

取り組む施策 計画推進の視点に立って施策を推進する。



施策 1	施策 2	施策 3	施策 4	施策 5	施策 6	施策 7
自律的かつ協動的な学びの創造	多様性を尊重し包容力ある人間性の涵養	しなやかで健やかな身体の育成	学びを促す学校内外の環境整備	家庭・学校・地域の連携・協働促進	市民が学び合う生涯学習社会の進展	歴史と文化の継承・活用

上記の各施策において、ICT を積極的に活用して取り組みます。

宇治市子どもの読書活動推進計画 (第三次推進計画) 令和4年～令和15年

子どもの読書活動は、子どもが、言葉を学び、感性を磨き、表現力を高め、創造力を豊かなものにし、人生をより深く生きる力を身に付けていく上で欠くことのできないものであり、社会全体でその推進を図っていくことが極めて重要です。

計画の基本的な考え方

すべての子どもが、自ら進んで読書に親しみ生涯にわたる読書習慣を身に付ける取組を進めます。

具体的な取組

- 子どもが読書に親しむ機会の提供と環境の整備・充実**
保護者を対象とした絵本に関するミニ講座やブックスタート事業を実施します。学校等における読みかせ・おはなし会や読書週間の取組を実施し、本のおたよりを発行します。各種公共施設における図書コーナーの開設と充実を図ります。
- 家庭・学校等・地域の連携・協力による取組の推進**
市立図書館・民間団体・ボランティア等とのイベントを実施します。市立図書館と学校が連携した電子図書館を活用します。
- 子どもの読書活動への理解と関心の普及・啓発**
SNS・市政だより・ホームページ等、各種情報メディアを活用した情報提供につとめます。子ども読書の日の周知啓発・広報と関連事業の充実の充実を図ります。

第2次宇治市図書館事業計画 令和4年～令和7年

図書館は、生涯にわたる読書や学びを支え、生活や地域活動の中で必要な情報を提供する拠点としての役割を担っており、地域文化の発展に寄与することが求められています。

計画の基本的な考え方

図書館資料や情報を幅広く収集・提供し、市民に役立ち誰もが利用しやすい図書館づくりを進めます。

具体的な取組

- 読む楽しさ、学ぶ喜びを創出する図書館**
図書館資料の充実に加え、テーマ図書展示や講座等を実施します。
- 情報の拠点として地域を支える図書館**
図書館のデジタル化を図るとともに、地域の課題解決を支援します。
- 地域文化を未来につなぐ図書館**
宇治の歴史や文化に関する資料などを収集し、次世代に引き継ぎます。
- 誰もが利用しやすい図書館**
わかりやすい情報発信に努め、電子図書館など非来館型サービスの充実や利便性の向上を図ります。
- 人とともに成長する図書館**
職員の資質向上に努め、計画に基づく取組を推進します。

ご家庭でも引き続き感染拡大防止にご協力をお願いします

毎日の健康観察

- 毎日の検温
- 発熱や風邪の症状があるときは、無理せず自宅療養
- 家族に体調不良者がいる場合は外出を控える。

手洗いの励行

- 外から帰ったとき
- 咳やくしゃみ、鼻をかんだとき
- 共有のものを触ったとき
- 食事の前後等

咳エチケットの徹底

- 咳・くしゃみをする際に、マスクやティッシュ・ハンカチ、袖を使って、口や鼻をおさえる。

密の回避

- こまめな換気
- 身体的距離の確保
- マスクの着用(熱中症の心配があるときは外す。)

抵抗力を高める

- 十分な睡眠
- 適度な運動
- バランスのとれた食事

STOPコロナ差別

- 不安を差別につなげない。
- 正しい知識と情報を知る。
- 患者やその家族、医療従事者等への配慮



京都府学力診断テスト(中学校2年生) 結果概要

実施日：令和3年10月20日(水)
対象：宇治市立全中学校 第2学年生徒
調査教科：国語、数学、英語

京都府学力診断テストは、京都府内の中学校2年生を対象に、国語、数学、英語における生徒の学習状況を的確に把握するとともに学校における指導方法の工夫改善に役立てるため実施しています。

【出題範囲】 中学校第1学年から第2学年9月末までの国語、数学、英語の学習内容

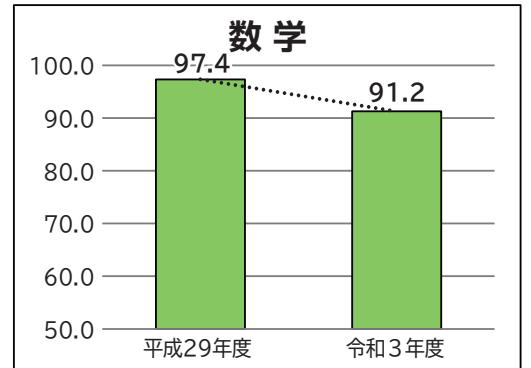
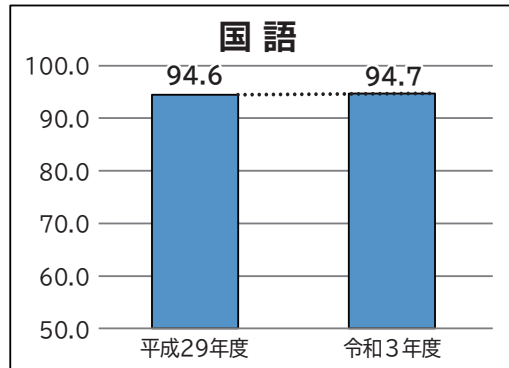
全体平均正答率(%)

	宇治市	京都府	差
国語	61.3	64.7	-3.4
数学	55.7	61.1	-5.4
英語	55.3	60.5	-5.2

同一集団の経年比較

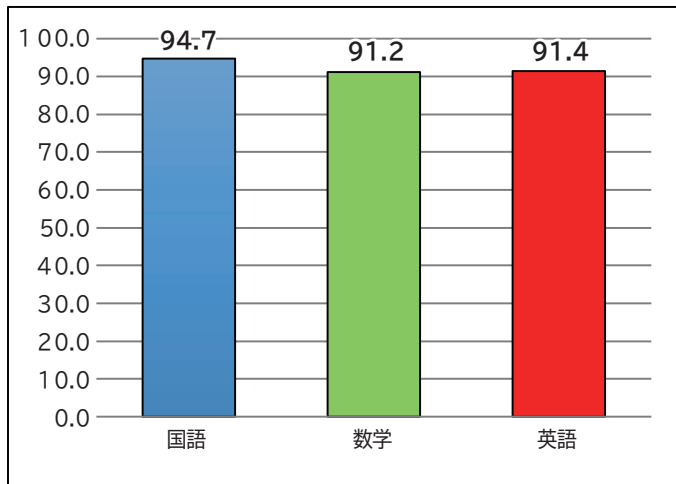
(現中学校2年生が小学校4年生時(平成29年度)の平均正答率との比較)

※令和2年度は京都府学力診断テストが中止となったため、中学校1年生(令和2年度)時点の結果はありません。



※ 数学<平成29年度>結果は算数の値

府の平均正答率を100とした時の宇治市の割合



※値について

・値は全て小数第2位を四捨五入し、小数第1位までの表記にしていますので、実値と若干の誤差が生じる場合があります。

各教科とも、全体の平均正答率において府を下回る結果ですが、国語では、同一集団での比較において市と府との割合差に若干の改善傾向が見られます。

各教科における課題をみると、国語では、漢字を書くことや、接続詞の働きなどの「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」の領域や、伝えたいことを分かりやすく書くなどの「書くこと」の領域に課題が見られます。

数学では、正の数・負の数の四則計算や指数計算などの「数と式」の領域、面積や体積を求めるなどの「図形」の領域、ヒストグラムを読み取り、相対度数や平均値、中央値、最頻値を捉えるなどの「資料の活用」の領域で顕著な課題が見られます。

英語では、文意から特定の単語に着目して複数形や過去形などの適切な形で表現したり、内容にまとまりのある一貫した英語の文章を書いたりする「書くこと」の領域に顕著な課題が見られます。

今後とも、各校において、基礎的・基本的な学習内容の確実な定着を図るため、詳細な分析に基づく生徒の学力状況を的確に把握し、義務教育9年間を見通した指導方法の工夫と改善を推進するよう指導に努めてまいります。

課題のある問題例

数学

問題 15 「扇形の面積」

15 半径3cm、中心角120°のおうぎ形があります。このおうぎ形の面積として正しいものを、次のア～エから1つ選びなさい。ただし、円周率は π とします。

ア 2π (cm²) イ 3π (cm²) ウ 6π (cm²) エ 9π (cm²)

【正答】 イ

【京都府と宇治市との反応率差】 -12.9%

【課題について】

円の一部としての扇形について、同一の円の弧の長さや面積が、中心角の大きさに比例することを理解して解くことが求められます。

円の面積の求め方について小学校算数科での学習を振り返るとともに、中心角120°により面積が同一の円の1/3になることを理解する必要があります。

英語

問題 6 「正しい複数形を書く」

6 次の1、2のそれぞれの会話が成立するように、()内の語を、正しい形に1語で書きかえなさい。

1 Emi : I visited three (city) in Hokkaido.
Tom : Oh, did you?

【正答】 cities

【京都府と宇治市との反応率差】 -8.5%

【課題について】

語と語のつながりなどに注意して正しく文を書くことが求められます。

Emiの“I visited three ~.”から、その後に続く名詞“city”が複数になることを判断する必要があります。また、citys, citis, city'sなど、文法上正しく複数形にできていないことも課題と考えられます。

※ 反応率差…各問題の解答類型に対する生徒が選択した割合について、府と宇治市との差を表したものの

宇治市立幼稚園こども展の取組

(令和4年1月15日・16日・18日開催)
神明幼稚園・東宇治幼稚園・木幡幼稚園

心を動かす出来事!
幼稚園に消防車がやってきた!

高まる表現への意欲!
消火開始!

感じたことや考えたことを自分なりに表現することの喜び!

長いホースをつくろう!

サイレンを鳴らしてウーカンカン♪

身近にある素材を自ら選び、イメージしたものを工夫して作ります。

作ったものを使い、友達と関わって遊びます。



4歳児
「しゅーっとするながいのすごかった。」

5歳児
「まえからみたら おっきいミラーがあつてな それがかっこよかった。」

幼児の自己表現は素朴な形で行われることが多いですが、幼稚園では、一人一人の表現しようとする意欲を大切に受け止めることで、園生活の中で幼児らしい様々な表現を楽しむことができるようにしています。

こうした幼児期の経験は、小学校の学習において感性を働かせ、表現することを楽しむ姿につながります。これらは、音楽や造形、身体等による表現の基礎となるだけでなく、自分の気持ちや考えを一番適切に表現する方法を選ぶなど、小学校以降の学習全般の素地になります。また、臆することなく自信をもって表現することは、教科等の学習だけでなく、小学校生活を意欲的に進める基盤ともなっています。(幼稚園教育要領解説(平成30年3月文部科学省)より)

平成31年度(令和元年度)～令和3年度 京都府小学校教育研究会 研究協力校

健康安全教育研究大会 伊勢田小学校

(令和3年11月12日(金)開催)

研究テーマ 「健康第一!命大事に!」
～学力向上につながる生活基盤の形成・自ら考え判断し、行動できる児童の育成を目指して～

新型コロナウイルス感染症対策のため、参加人数が制限された中ではありましたが、研究発表会が開催されました。

当日は、毎日行っている「伊勢田ストレッチ」(立位と座位の2バージョン)と、生活科・体育科(保健)・総合的な学習の時間において、視覚支援によるどの児童にもわかりやすい授業や児童が体験的に学ぶ工夫を凝らした授業等、15の授業が公開されました。



公開授業 (タブレット端末を活用し交流する学び)

伊勢田ストレッチ(座位バージョン)

公開授業(思考ツールを活用した学び)

シェイクアウト訓練の様子

「学習の足あと」を校内に掲示

「シェイクアウト訓練」とは、地震の際の安全確保行動訓練のことで、『命を守る3動作』(「姿勢を低くする」「頭を守る」「動かない」)を毎月1回、休み時間を利用して全校一斉に実施しました。

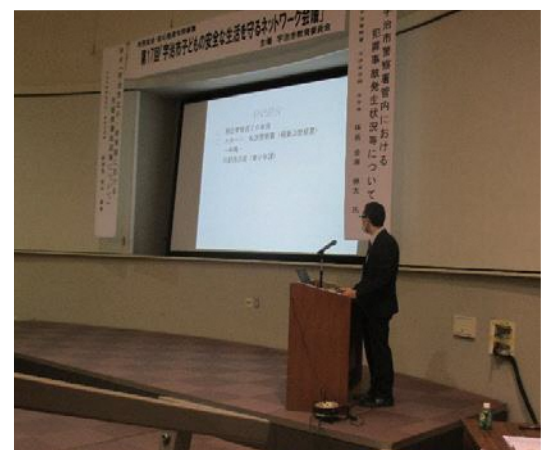
3年間の研究では、対話や交流、タブレット端末を活用した授業を通して、児童の学ぶ姿勢に変容が見られ、それに加えて、けがの件数が減ったり、給食の残菜量が減ったりする等、健康安全教育における成果がありました。

第17回「宇治市子どもの安全な生活を守るネットワーク会議」 令和3年12月14日(火) 宇治市生涯学習センター

新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、規模を縮小しての開催としましたが、宇治市立各幼稚園・学校関係者、PTA・育友会関係者、各学区安全管理委員会の各代表者等、70名が参加しました。

今回は、特に、子ども達の安全・安心について改めて認識し、各地域における取組の更なる推進につながることを目的とし、京都府宇治警察署からは、「府全域や市内での犯罪事故発生状況、登下校等、学校内外での安全対策について」、また本市教育委員会からは、「児童生徒を取り巻く環境の変化や問題行動の状況について」の講演を行いました。

本市では、毎年7月10日～19日、12月10日～19日を「市民安全・安心推進旬間」と定め、子どもたちの安全を含めた地域の安全を再点検する機会としています。「宇治市子どもの安全な生活を守るネットワーク会議」は、家庭・学校・地域が共に手を携えながら、地域ぐるみで子どもの安全を守る取組として、継続して実施しています。



宇治市立幼稚園、小・中学校の講師登録者募集中!

先生の仕事に興味があるんだけど…

フルタイムでなくても大丈夫かしら?

講師登録は随時受け付けています。迷っている方も、まずはご連絡ください。

【お問い合わせ先】
宇治市教育委員会教育総務課 教職員係

【直通電話】0774-20-8755

「宇治青少年こころの電話」がリニューアルしました!

対象 小・中学生の皆さん 保護者の皆さん

「ふれあい教育相談」

サンキュー クイナク

電話 0774-39-9179

平日の午後1時から5時まで

メールでもメールでもお気軽にご相談ください

メールアドレス k-soudan@city.uji.kyoto.jp



シリーズコラム 子どもの心と育ちを考える

第6回 成長の中で 節目を越えていくこと

3月は春の入り口ですね。春という季節は、小学生・中学生・高校生のみなさんにとって、進級の季節です。一人一人の児童生徒のみなさんに毎年訪れるこの進級という「節目」は、何年かに一度は「卒業」というかなり大きな「節目」になります。卒業の時にはこれまで一緒に過ごしてきた人たちや、毎日通ってきた場所とお別れするさびしい気持ちもあるでしょうし、新しい場所に踏み出していくに伴う不安な気持ちや心配な気持ちもあるでしょう。一方で、これまでと違う場所に行って違う人と出会うかもしれないことへの楽しみな気持ちもあるかもしれません。「不安と期待が入り混じった気持ち」という、よく使われる言葉がありますが、本当にそんな感じで、ポジティブな気持ちもあればネガティブな気持ちもあって、複雑にころころ動く時ではないかと思えます。それは、卒業でも進級でも、程度の差こそあれ、あまり変わらないことでしょう。

人が生まれてから死ぬまでを、一つの大きな流れとして理解しようとする「生涯発達心理学」の中では、こうした節目のことを「危機」と呼びます。「危機」というと、何か「まずい状態」で、「ピンチ」の

ように聞こえてしまうかもしれませんが、ですが、「ピンチ」は同時に「チャンス」でもあります。ピンチとチャンス、ネガティブとポジティブが入り混じった「危機」節目は、卒業・進級だけでなく、さまざまな「節目」として、人生の様々な場面で現れるだろうと思えます。大人になって、仕事をしながらでも、何年かに一度は、きつと節目の時を迎えることがあるでしょう。

もしかすると、十代から二十代にかけての「青年期」と呼ばれる時期は、それ自体「子どもと大人の節目」であり、大きな危機なのかもしれません。また、社会全体も時々大きな節目を迎えることがあり、現在のコロナウイルスの感染拡大による社会の動揺も、大きな変化の時、社会全体の危機的節目となっていく可能性が高いように思われます。コロナのあとは、どのような社会の形になっているのでしょうか。

一人一人の、一年一年の「節目」もあります。卒業のような「節目」もあれば、大人と子どもの「節目」もあります。社会全体の大きな「節目」のようなものもあるでしょう。先がどうなるか、ちよつとはつきりしないような気分の中で、不安になることもあるでしょうが、この一年を振り返りつつ、時の流れの中で、一步一步前に進んでいきましょう。皆様、どうぞ良い新年度をお迎えください！

(スクールカウンセラー K.M)

宇治市小中一貫教育推進協議会委員による視察から

保護者代表や地域関係団体代表等で構成している小中一貫教育推進協議会では、小中一貫教育の取組について協議するほか、各中学校ブロックの取組を視察しています。宇治市立小中学校は、来年度から随時コミュニティ・スクールを設置し、一層地域とのつながりを大切にしながら小中一貫教育を推進するため、今年度は、「地域とのつながり」をテーマに視察しました。

『広野中ブロック HOT-MEETING (3校合同児童生徒会)』

広野中ブロック(広野中学校・大久保小学校・大開小学校)では、年間3回、合同の児童会・生徒会本役員会を開催しています。今回は、「福島ひまわり里親プロジェクト」と「3校合同の取組」を議題に、Zoomを活用してオンラインで会議が行われました。「福島ひまわり里親プロジェクト」は、地域の方にお世話になりながら参加して8年目となる取組です。

委員の感想

取組のテーマが、具体的かつ夢のある小中共通の努力目標になっていることと、地域の方が当初から変わらず関わり続けてくださっていることで、児童会、生徒会だけでなく全校の取組へと発展させながら継続できているのだということがわかりました。コロナ禍で、オンラインで開催するために、小中学校の教職員が協働で準備を進めたと聞きました。小学生も中学生も、オンラインに臆することなくスムーズに交流されていました。グループ別交流会では、タブレットを介して、中学生がリードしている様子を目の当たりにし、校種を越えた児童生徒交流が、お互いの刺激や成長につながっていると感じました。



『槇島中ブロック日本文化体験(着付け・生け花)』

槇島中学校では、地域の方12名を講師に迎え、着付けと生け花の体験学習が行われました。地域の方はブロックの小学校の取組にも参画していただいております、小学校の時期から顔見知りの生徒に、温かく声を掛けてくださっていました。

委員の感想

普段、PTAに関わっていても子ども達が学んでいる姿は参観の時に見ることにしかなく、貴重な体験でした。地域と学校が連携している授業を参観させていただく中で、地域の方の子ども達に対する温かいまなざしを感じました。登下校時の見守りなど、地域の方が子ども達の学ぶ環境を支えてくださっていることは多いと思います。今回のように授業の中に地域の方の出番があることで、児童生徒と地域、学校と地域の関係がより深まっていくのだろうと感じました。



『宇治市の教育だより』は、宇治市のホームページから閲覧することができます。

宇治市ホームページ <https://www.city.uji.kyoto.jp/>

キーワード検索

宇治市の教育だより

検索

